

## 展開例

つどいの流れ	備考
第1部（迎火の儀式 15分程度）	
1. 入場 2. 歌 3. 聖火の入場 4. 燭台に点火 5. はじめのことば 6. 歌	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本番は暗いため、歌詞は覚えておく。</li> <li>・BGMがあってもよい。</li> <li>・点火の方法や衣装の工夫をする。</li> </ul>
第2部（親睦の火 50～60分程度）	
1. ゲーム （参加者の緊張をほぐし楽しい雰囲気をつくる） 2. 歌 （歌声を合わせて、参加者相互の友情を深める） 3. スタンツ （グループ単位での出し物を楽しみ団結力を高める）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・司会は事前に出し物の内容を把握しておく。</li> </ul>
第3部（分火の儀式 15分程度）	
1. 歌 （心を落ち着かせるもの） 2. 分火 （個人用ローソクまたはトーチに分火して誓いの言葉などを述べる） 3. おわりのことば 4. 歌 （つどいの終わりを惜しみ、友情を確かめるような歌） 5. 退場	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参加者の気持ちを高めるような流れで進行する。</li> </ul>

## 迎え火のことは（例）

わたしは山口徳地の大地より

〇〇学校〇年〇〇名のためのために遣わされた火の神である。

ここ国立山口徳地青少年自然の家は、豊かな自然に囲まれている。

この大自然の中で過ごす体験活動がもっと楽しくなるようしばし耳を傾けておくれ。

では、火の巫女がもつ火を見よ。

火は人間に与えられた宝物である。

火があるおかげでこれまで人間は多大なる進化を遂げてきた。

火は明るく、温かい。だがその使い方をあやまるとおそろしい。

そのような火は、実はみんなの心の中にもあるのだ。

これから心の中にもとし続け大切にしてほしい、4つの火を教えよう。

第1に、「活力の火」

活力とは、活動のもとになるエネルギーの事である。

何事にも力強く取り組む心をもってほしい。

第2に、「愛情の火」

愛情とは、相手にそそぐ温かな感情のことだ。

どんな人にも温かく接し、仲良く協力して生活してほしい。

第3に、「希望の火」

人は生きていくうえで様々な困難に出会うことがある。

だが、どんなことがあってもあきらめないでほしい。

最後に「浄化の火」

火とは、醜いものを一切焼き尽くす力をもつ。

誰にでもあるであろう醜い心を消し去る火を大切にしてほしい。

この教えから、どんな苦しみにも打ち勝つ力と人や自然を愛する優しさを身につけてほしい。

では、みんなの成長を願い

「活力」「愛情」「希望」「浄化」の力となる火をあたえよう。